

機等で1512台の買い換えを予定している。現在、使用中の端末については、有効活用の観点から、一定数は学校や市で再使用を検討する予定である。再使用する端末数、また廃棄する端末数については、これから調整していく。

廃棄する端末については、個人情報とデータ消去を徹底する中で、処理委託による再使用及び再資源化を進める必要があると認識している。



浦尻 学典 議員

事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップについて

問 一般の事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップの内容について、また、第3回ワークショップの予定についても問う。

答 第2回ワークショップでは、東日本大震災等の復興事

例や国の被災者支援制度について説明し、応急期及び復旧期における仮設住宅や新たな住宅の建設場所について意見をいただいた。今後も引き続き地域ワークショップを重ね、事前復興まちづくり計画に反映したいと考えている。

また、第3回ワークショップでは、安全な住まいと合わせた復興まちづくりについて議論を深め、生業や各施設の配置等をテーマに実施予定であり、初めての方でも参加可能なので、ぜひ、危機管理課まで連絡をいただきたい。

災害発生後、自治体への避難者のアクセスについて

問 各自治体へ広域避難を行う際、他自治体へのアクセスについて問う。

答 広域避難に伴う住民移送は、道路が寸断され通行が不可能な場合は、各道路管理者が道路啓開を終了した後に実施される。もし、松田川大橋や福良橋が同時に落橋した場合、小筑紫、福良から土佐清水市に抜ける県道、市道、林道等が通行可能かを調査す

ることとなり、調査の結果、全ての道路が寸断され、道路啓開に長期間を要する場合には、大海地区や小筑紫地区に整備されたヘリポートを利用し、ヘリコプター等による住民移送や自衛隊への救助要請を行うことを想定している。

海業の推進について

問 漁村では、人口減少や高齢化が課題となっており、豊かな自然や漁村ならではの地域資源の価値や魅力を活かした「海業」の振興により、雇用機会の確保と地域の所得向上を図ることが必要となってくると考える。本市の海業の推進について問う。

答 海業は、海や漁村の特徴的な産品や自然、伝統文化など、地域の個性である地域資源の価値や魅力を活用する取り組みや事業であり、近隣自治体でも周辺観光との連携等、特色のある様々な取り組みが行われている。今後における本市の海業の推進については、国、県が進める事業にも参画し、本市が有する豊かな海や漁港の魅力を活用した事業を実施してい

きたいと考えている。地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を通じて、宿毛の魅力に気づいてもらい、地域のにぎわいや所得、雇用を生み出す事に繋げていくため、具体的内容や規模は、市内の漁協等、海と関係する機関と引き続き検討を重ねて参りたい。



井上 将 議員

クルーズ船受け入れについて

問 クルーズ船受け入れは本市にとって外貨獲得のチャンスになる。市内周遊にどう繋げる計画か問う。

答 コロナ禍以降、本市はクルーズ船会社に地域資源を活用した史跡巡りや郷土料理の体験、農家体験や沖の島の遊覧観光などの体験型観光を提案し、オプショナルツアーが実施されている。体験型観光

商品を提供するためには、既存の事業者の協力が必要であり、事業者の手間や従来業務に影響が出るため、調整が難しいという問題や観光ツアーの頻度が少ないため、継続的に運営するには経営面での課題もあるが、国内外の乗船客のニーズは多様化しており、体験型観光への関心は高まっていると感じている。この機会を最大限に活用することは、大きな経済効果が期待できると考えており、今後、岸壁でのおもてなしの充実や本市の特性や観光資源を活用し、ブラッシュアップした寄港地プランを提案していきたい。

宿毛IDを利用したはなちゃんバス料金引き下げについて

問 内容と減収、民間業者への影響を問う。

答 令和7年1月6日から令和8年3月31日までの期間限定で、宿毛マイナンバーカードサービス、宿毛IDを登録した方を対象にまちぐる線の乗車料金を一律10円に、その他の路線については、一律100円に割引する。収入面で